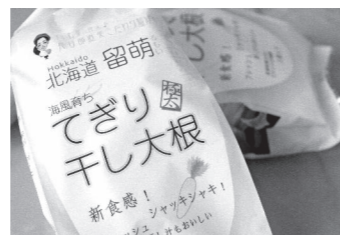


市政運営における5つの柱

① 新たな戦略による地域経済の活性化

経済界との連携を強め、国や北海道の施策を積極的に活用し、地域経済の活性化と雇用の確保を図ります。

また、地域経済の再生に向け、1次産業に携わる方が自信と誇り、希望を持って取り組める産業であり続けるよう、担い手の育成と確保、6次産業化や農商工連携の推進などによる地域の食の高付加価値化、留萌の豊かな食資源の都市部への供給ルートの確立、さらに、農林水産資源を活用した体験型観光による交流人口の拡大を進め、経済の活性化に繋がります。



▲オール留萌産「てぎり干し大根」

② 自然とともに生きる健康市民の構築

るもい健康の駅が中心となり、食生活の改善など地域住民が健康づくりを学ぶ場の創出や予防医学の視点による医学研究を推進しながら、全ての市民が住み慣れた地域とともに支え合い、安心してイキイキと生活できるマチを目指します。

「留萌市立病院改革プラン」の最終年度を迎える市立病院においても、病院経営の安定化を着実に進めるとともに、市民の生命と健康を守るため、地域センター病院としての役割と機能を堅持します。

市民の皆さんが自分の健康上の問題点に気づき、その解決のために自らが興味を持って取り組み、健康でイキイキとした社会生活が送れるよう、地域の医療、介護、福祉の充実を図ります。



▲留萌市立病院

③ マチの安心安全と賑わいの創出

都市機能の充実を図るため、市民生活に欠かせない道路などの社会資本の整備を進め、将来にわたる安心安全の確保に努めます。

安心安全に暮らせる地域をつくることは市民生活の基本であり、自主防災組織の設立や市民防災訓練など「地域の防災活動」を推進し、地域における防災意識の向上と新たな防災拠点の整備に取り組みます。

また、まちなかの賑わいづくりに向け、関係団体と一層連携を深め、商店街の新たな魅力の創出に向けて取り組みます。



▲留萌市市民防災訓練

④ 健やかな子どもを育む未来への約束

平成27年度から「子ども・子育て支援新制度」が始まり、多様な子育て支援を展開し、地域ぐるみで子育てを応援する環境づくりを総合的に推進します。

また、教育環境の整備を進めるとともに、新たに設置する「総合教育会議」を通して、教育施策の方向性を教育委員会と共有しながら、教育目標となる「大綱」を策定し、子どもたちの夢と可能性が育つまちづくりを進めます。



▲ワイワイ賑わい子ども広場

⑤ 留萌港利活用に向けた魅力発信

地域を支える拠点港としての整備を進めるとともに、留萌港の魅力高める施設整備の検討を進めます。

また、間伐した地域材の輸出をはじめ、対岸地域との貿易による港湾施設や船舶などの利用増大に向け、関係機関との連携を図り、経済交流の調査研究に取り組みます。



▲留萌港から輸出される間伐材

市政執行の重点的な取り組み

テーマ

留萌おもいやり・おもてなし物語

キャッチフレーズ

明るく笑顔のキャッチボール



市は、「市民が主役のまちづくり」を掲げ、市政懇談会などを通じて、多くの市民の皆さんと対話を重ねながら、市が直面する課題に取り組んでいます。

平成26年度は、「輝く留萌挑戦物語」をテーマに、そして「留萌の魅力を高めたい」をキャッチフレーズに、市民の皆さんの協力を得ながら、取り組みを進めることができました。

27年度のテーマは、「留萌おもいやり・おもてなし物語」とし、「明るく笑顔のキャッチボール」をキャッチフレーズに27年度に最終年度を迎える「新・留萌市財政健全化計画」の終了を最優先に、「留萌市立病院改革プラン」の進捗よく状況に配慮しながら、「第5次留萌市総合計画」の着実な推進を図ります。

そして、地方創生という流れを受け止め、留萌経済の再生を目指し、「ひとづくり」「ものづくり」「ことづくり」について市民の皆さんと一丸となってアイデアを出し合い、住みよい地域を実感できるような「人情港町留萌」を目指し、次に掲げる5つの柱に基づいて市政運営に取り組んでいきます。